

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担 当 課: 道路局 環境安全・防災課

担当課長名: 水野 宏治

事業名	空港・港湾等アクセス 一般県道 学園木花台本郷北方線 山下工区	事業区分	地方道	事業主体	宮崎県	
起終点	自: 宮崎県 宮崎市 大字熊野 至: 宮崎県 宮崎市 大字郡司分			延長	1.1km	
事業概要						
<p>一般県道学園木花台本郷北方線は、宮崎学園都市の中心部を起点とし、主要幹線道路である一般国道220号とを結ぶ延長約4.5kmの路線である。本工区の整備は、宮崎市内へのアクセス強化、緊急輸送道路としての防災機能の強化、空港・港湾や高速道路のインターチェンジへのアクセス向上などに大きく寄与する重要な道路である。</p>						
令和3年度事業化		平成5年度都市計画決定	令和3年度用地着手	令和3年度工事着手		
全体事業費		75億円	事業進捗率	約39%	供用済延長 0km	
計画交通量		9,300台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 41/63億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 161/161億円	
	2.6	10.0%	(事業費: 40/62億円 維持管理費: 0.38/0.38億円 更新費: / 億円)		(走行時間短縮便益: 131/131億円 走行経費減少便益: 26/26億円 交通事故減少便益: 3.6/3.6億円)	
	対参考 3.9 [2%] 4.9 [1%]					
	(残事業)	(残事業)	感度分析 (事業全体)		(残事業)	
	3.9	16.0%	交通量	B/C=2.5~2.6(±10%)	交通量	B/C=3.9~4.0(±10%)
5.8 [2%] 7.2 [1%]	事業費		B/C=2.4~2.7(±10%)	事業費	B/C=3.6~4.4(±10%)	
		事業期間	B/C=2.3~2.7(±20%)	事業期間	B/C=3.6~4.1(±20%)	
事業の効果等						
①物流拠点「宮崎学園都市ハイテクパーク」、基幹災害拠点病院「宮崎大学医学部附属病院」、重要港湾「宮崎港」「宮崎空港」へのアクセス向上が図れる。 ②緊急輸送道路(第1次ネットワーク)である本路線が全線開通することにより、防災機能の強化が図られる。 ③新たなバイパス整備に伴い、主要渋滞箇所の回避及び交通の分散化が図られる。						
関係する地方公共団体等の意見						
『宮崎市要望』 市内中心部の交通渋滞緩和及び空港・港・高速ICなど交通拠点へのアクセス性の向上のため、整備促進を要望する。						
事業評価監視委員会の意見						
宮崎県公共事業評価委員会より、事業継続を妥当と認められている。						

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

宮崎港：令和8年2月よりRORO線の新定期航路開設（東京航路）
宮崎空港：国際定期路線増便（台北路線）
高速道路：令和5年3月に東九州自動車道の「清武南IC～日南北郷IC」が開通。

事業の進捗状況、残事業の内容等

用地買収100%完了、事業進捗率約39%（令和7年度末）
橋梁下部工は6基中5基完了、残る1基（P4）は令和8年度完了予定。
道路改良は起点側L=180mが下層路盤まで令和7年度完了予定。

残事業としては、上部工L=397m、道路改良L=540m、舗装工L=720m、交差点照明N=2箇所である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

令和8年度に橋梁下部工が完了次第、上部工に着手し、令和13年度に全線供用予定である。

施設の構造や工法の変更等

盛土材については、他工区と調整を行い、建設発生土の有効活用を行い、コスト縮減に努めている。

対応方針

継続

対応方針決定の理由

当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)